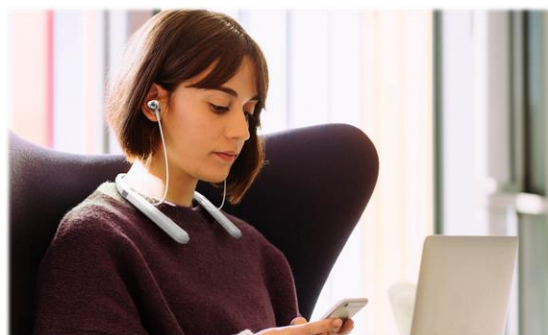


# 2021年3月期

## 第2四半期決算説明会資料



2020年11月4日

ヤマハ株式会社

# 決算発表のポイント

## 決算概要

( )数値は前年同期比

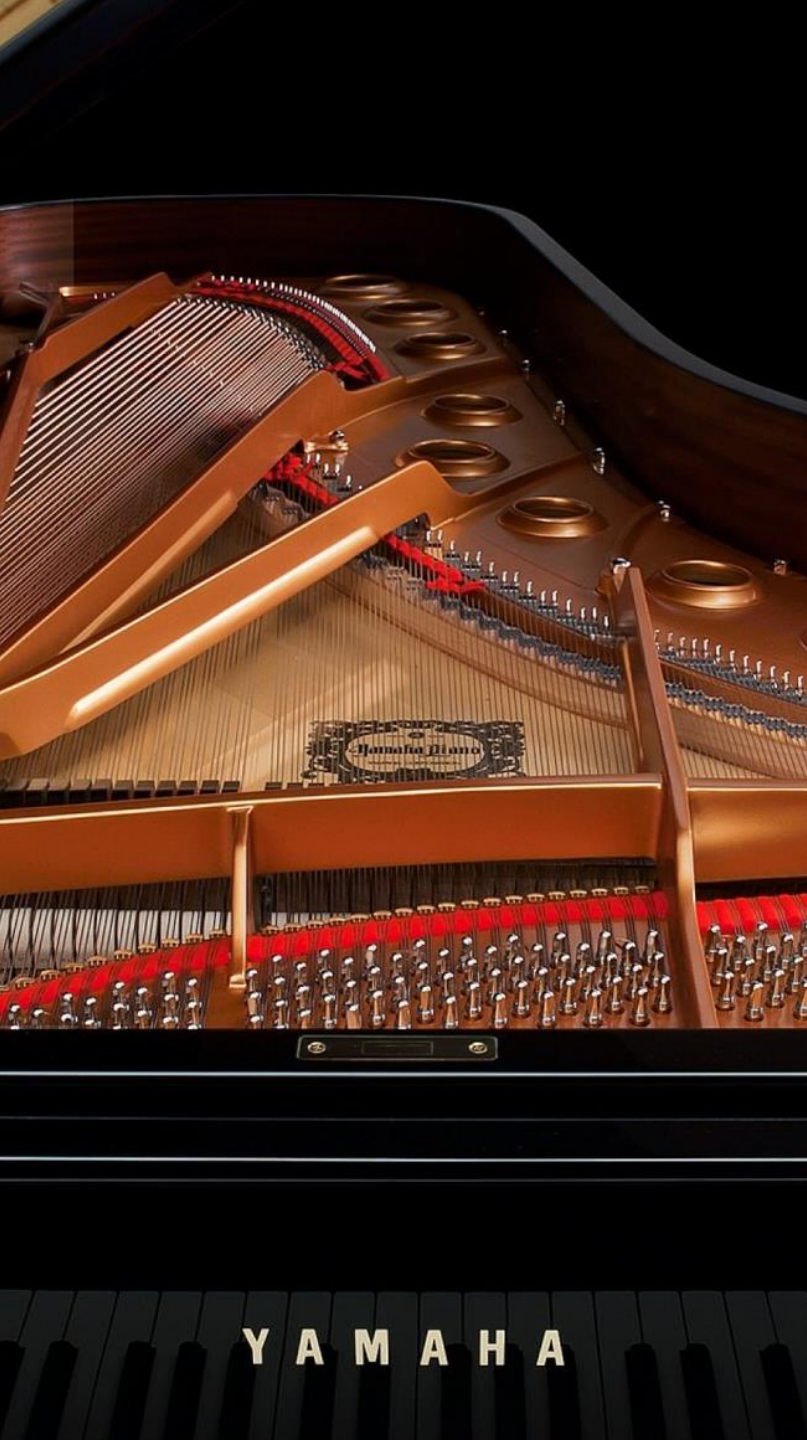
### 【21/3月期 上期実績】

- ・ステイホーム需要もあり市況は回復基調も、工場稼働制限による供給不足もあり減収減益
- ・売上収益1,648億円(▲21.0%)、事業利益130億円(▲50.2%)、事業利益率7.9%(▲4.6p)

## 業績予想

### 【21/3月期 通期予想】

- ・市況回復や供給不足解消が進み事業状況は改善してきているものの、2020年10月末、部品サプライヤー工場火災により、今後、電子部品調達難による影響が想定される。現時点で当期業績への影響を見積もることが困難なことから、通期業績の見直しは行わない。



# 1. 決算概要

## 業績概要

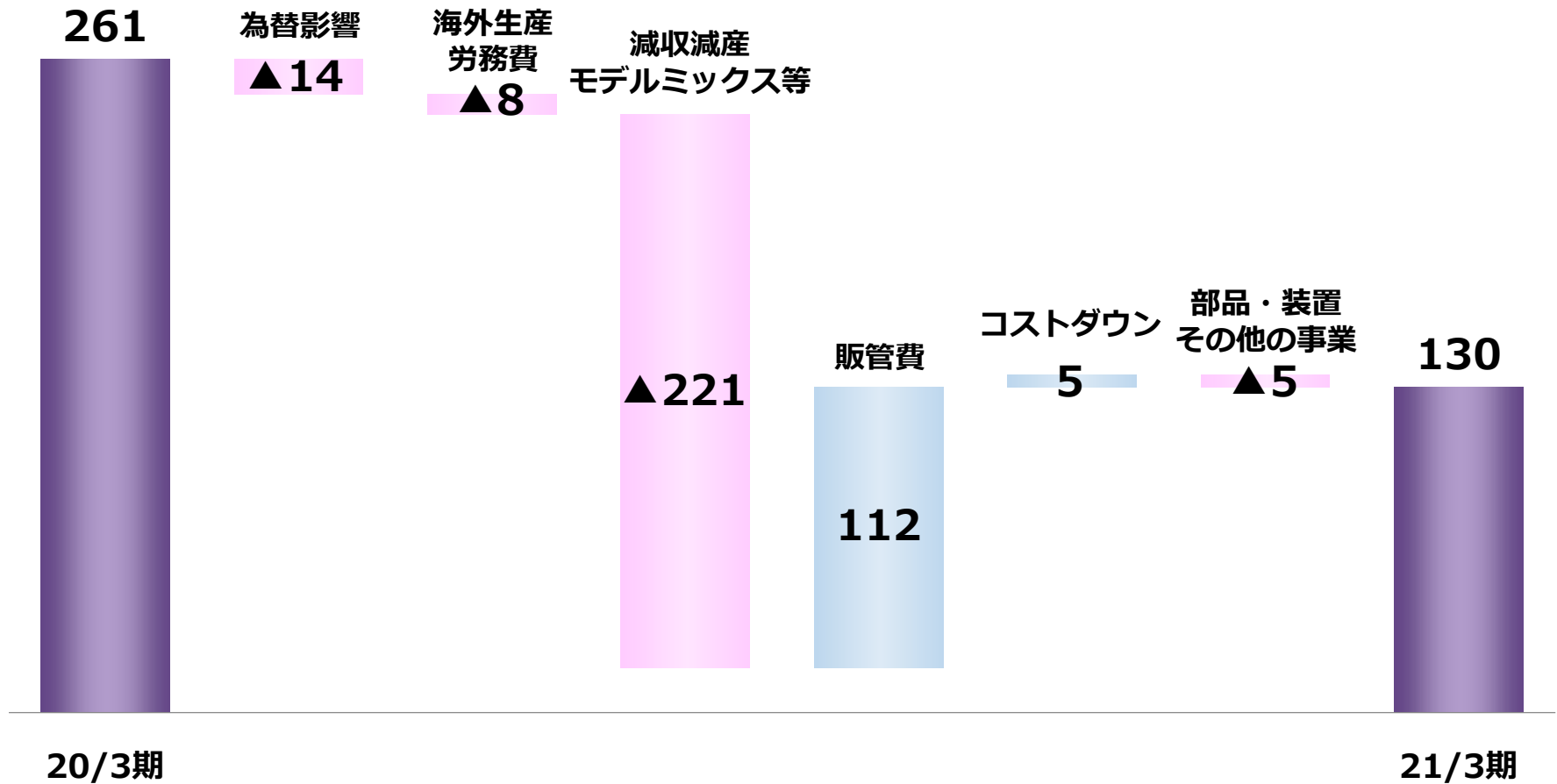
	20/3		21/3		前期比	
売上収益	2,085		1,648		▲437	▲21.0% <sup>*2</sup>
事業利益 (事業利益率)	261 (12.5%)		130 (7.9%)		▲131	▲50.2%
当期利益 <sup>*1</sup>	211		71		▲140	▲66.5%
*2 ▲19.7% (為替影響除く)						
為替レート (円)						
売上収益 (期中平均)	US\$	109	107			
	EUR	121	121			
利益 (決済レート)	US\$	109	107			
	EUR	124	119			

\*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

# 事業利益増減要因

## 前期との比較

(億円)



# 事業別業績

(億円)

		20/3	21/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	1,387	1,072	▲314	▲21
	事業利益	223	117	▲105	▲12
	事業利益率	16.1%	10.9%	▲5.1P	
音響機器事業	売上収益	545	452	▲93	▲6
	事業利益	37	16	▲21	▲3
	事業利益率	6.7%	3.5%	▲3.2P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	153	124	▲30	▲1
	事業利益	2	▲3	▲5	0
	事業利益率	1.2%	▲2.3%	▲3.5P	

# 通期業績予想

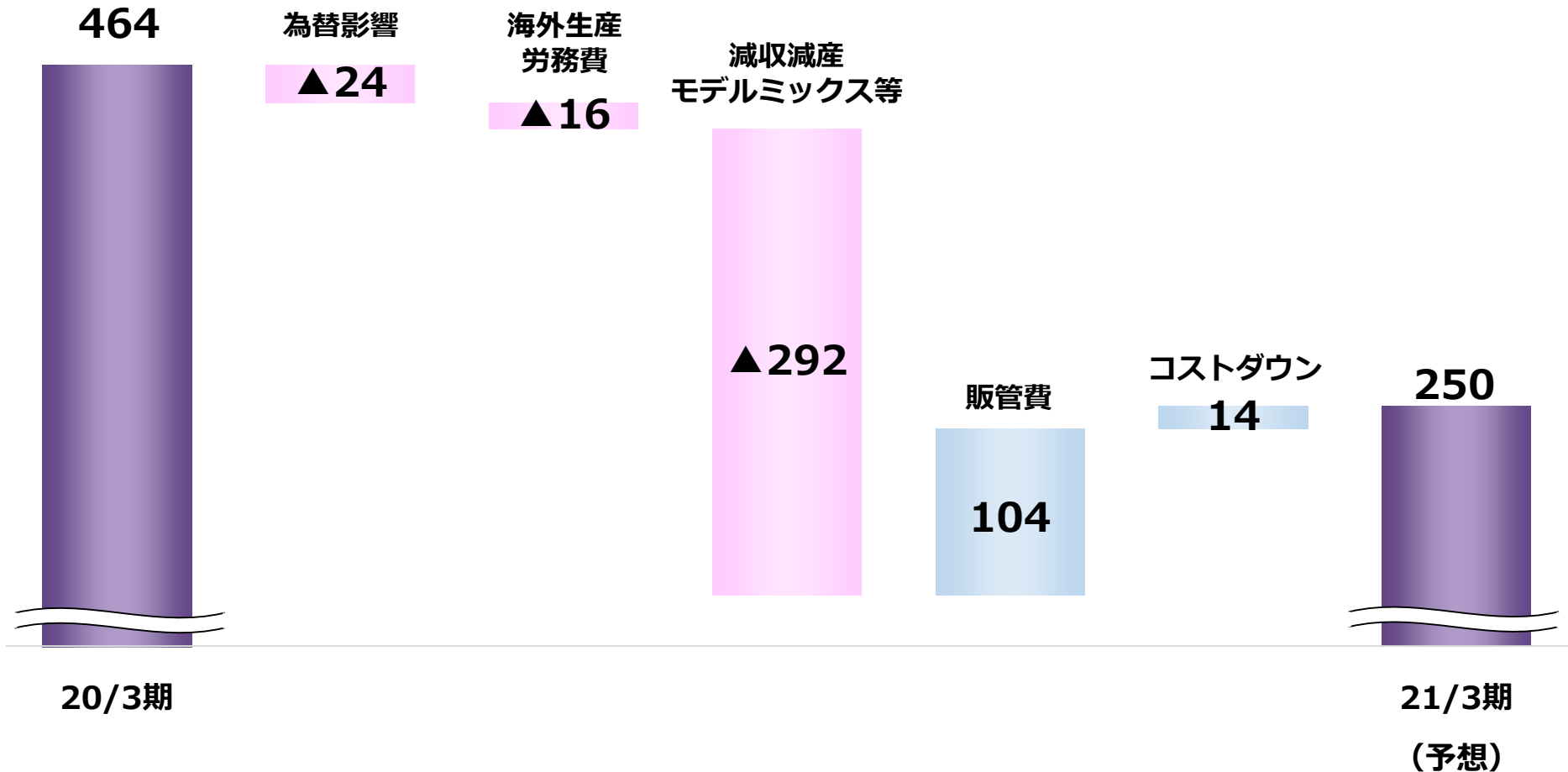
	20/3		21/3		前期比	
売上収益	4,142		3,550		▲592	▲14.3% <sup>*2</sup>
事業利益 (事業利益率)	464 (11.2%)		250 (7.0%)		▲214	▲46.1%
当期利益 <sup>*1</sup>	346		160		▲186	▲53.8%
<sup>*2</sup> ▲12.9% (為替影響除く)						
為替レート (円)						
売上収益 (期中平均)	US\$	109	108			
	EUR	121	120			
利益 (決済レート)	US\$	109	108			
	EUR	122	120			

\*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

# 事業利益増減要因

## 前期との比較

(億円)

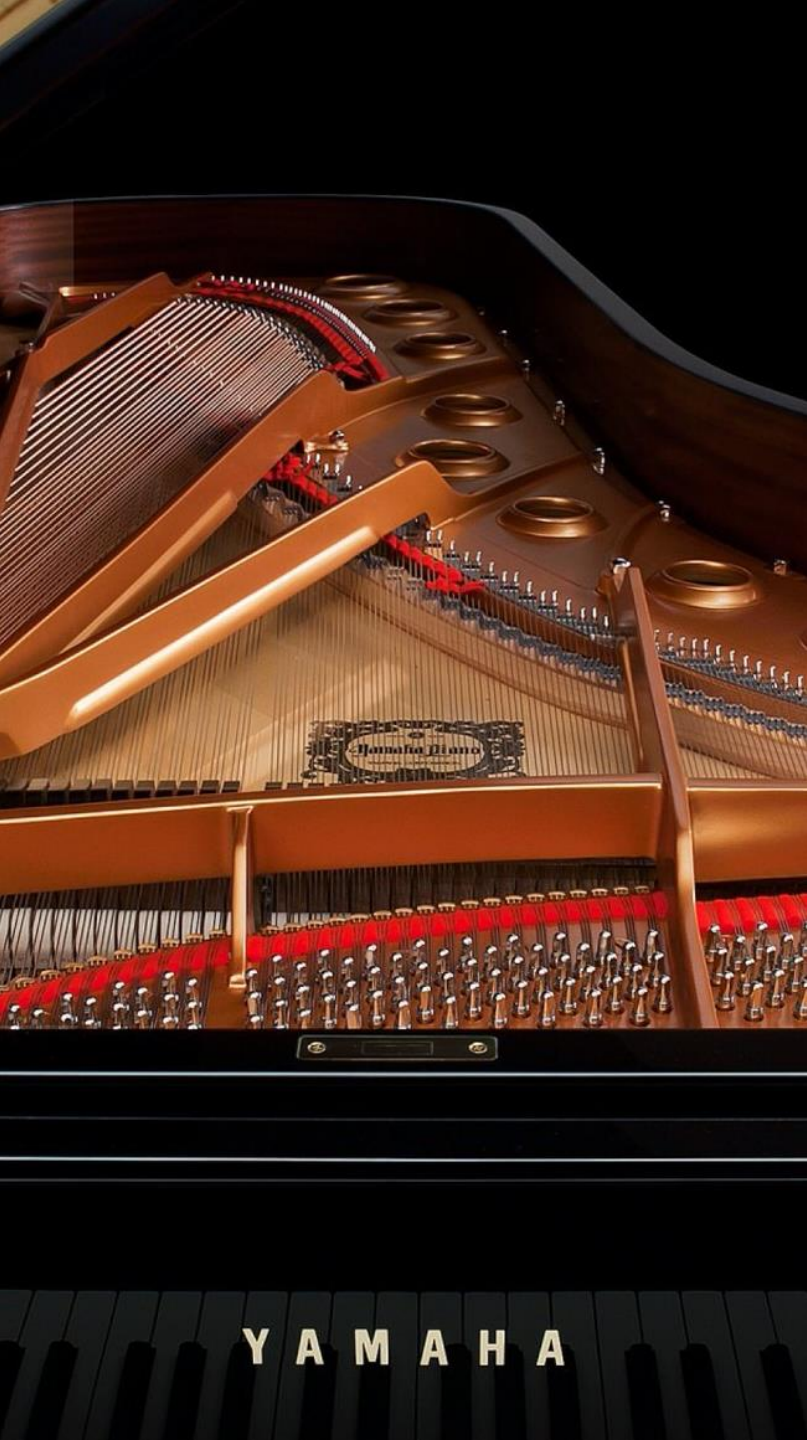




# 事業別通期業績予想

(億円)

		20/3	21/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	2,694	2,280	▲414	▲44
	事業利益	378	200	▲178	▲19
	事業利益率	14.0%	8.8%	▲5.2P	
音響機器事業	売上収益	1,144	1,000	▲144	▲15
	事業利益	86	50	▲36	▲5
	事業利益率	7.5%	5.0%	▲2.5P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	305	270	▲35	▲1
	事業利益	0	0	0	▲0
	事業利益率	0.1%	0.0%	▲0.1P	

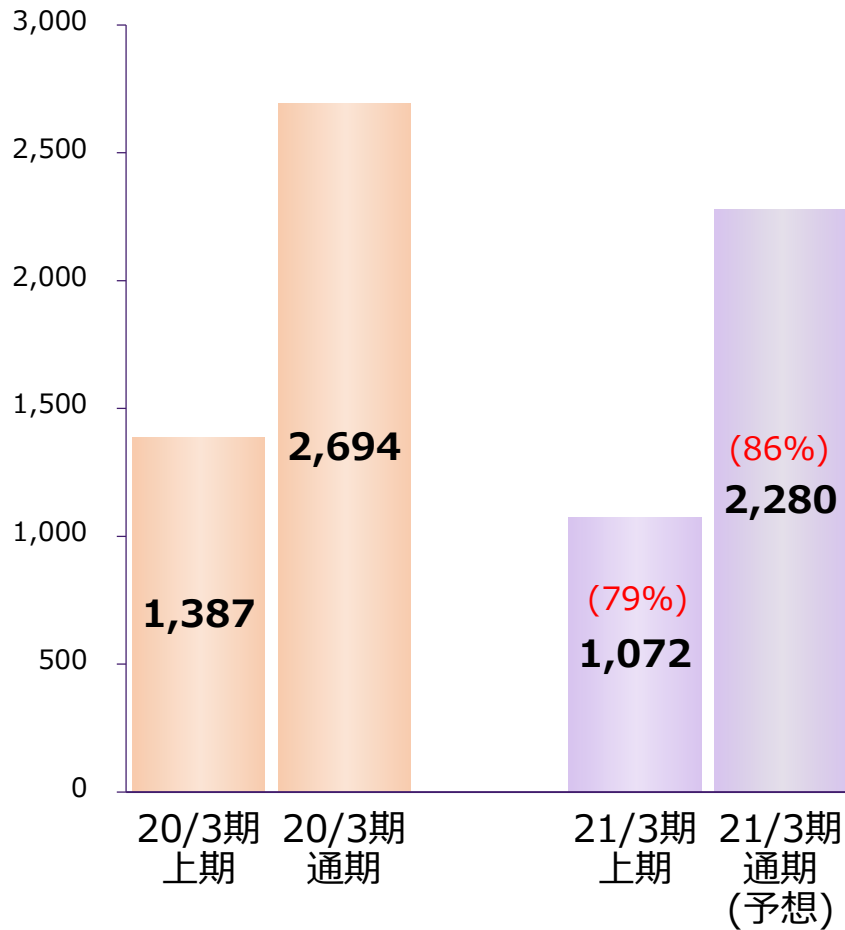


## 2. 事業別概要

# 売上収益・事業利益

## 売上収益

(億円)



[上期状況] ステイホーム需要堅調も供給不足から減収減益

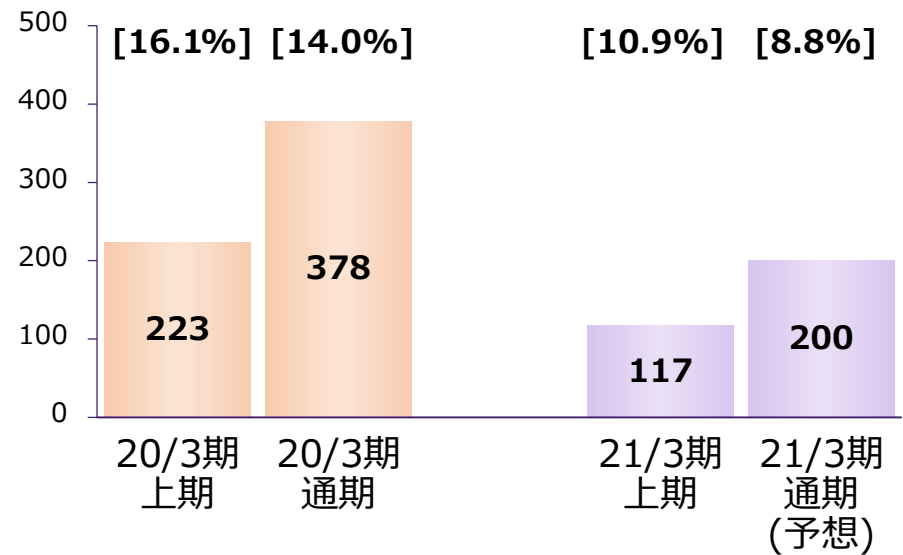
- ・ピアノは店舗再開で回復の兆し、電子楽器はステイホーム需要継続も供給不足で減収、管弦打は学校再開遅れで需要低迷、ギターは需要旺盛で増収
- ・地域別では中国が復調、それ以外の地域は回復基調も供給不足で減収

[通期見込] 下期は市況回復も電子部品調達難により売上予想困難

- ・ピアノは下期に市況回復、電子楽器は電子部品調達難から減収、管弦打は学校需要縮退で苦戦継続、ギターは需要堅調で増収を予想
- ・中国は増収、それ以外の地域は減収を予想

## 事業利益

(億円)



( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[ ]内は事業利益率

# 主要商品 販売状況

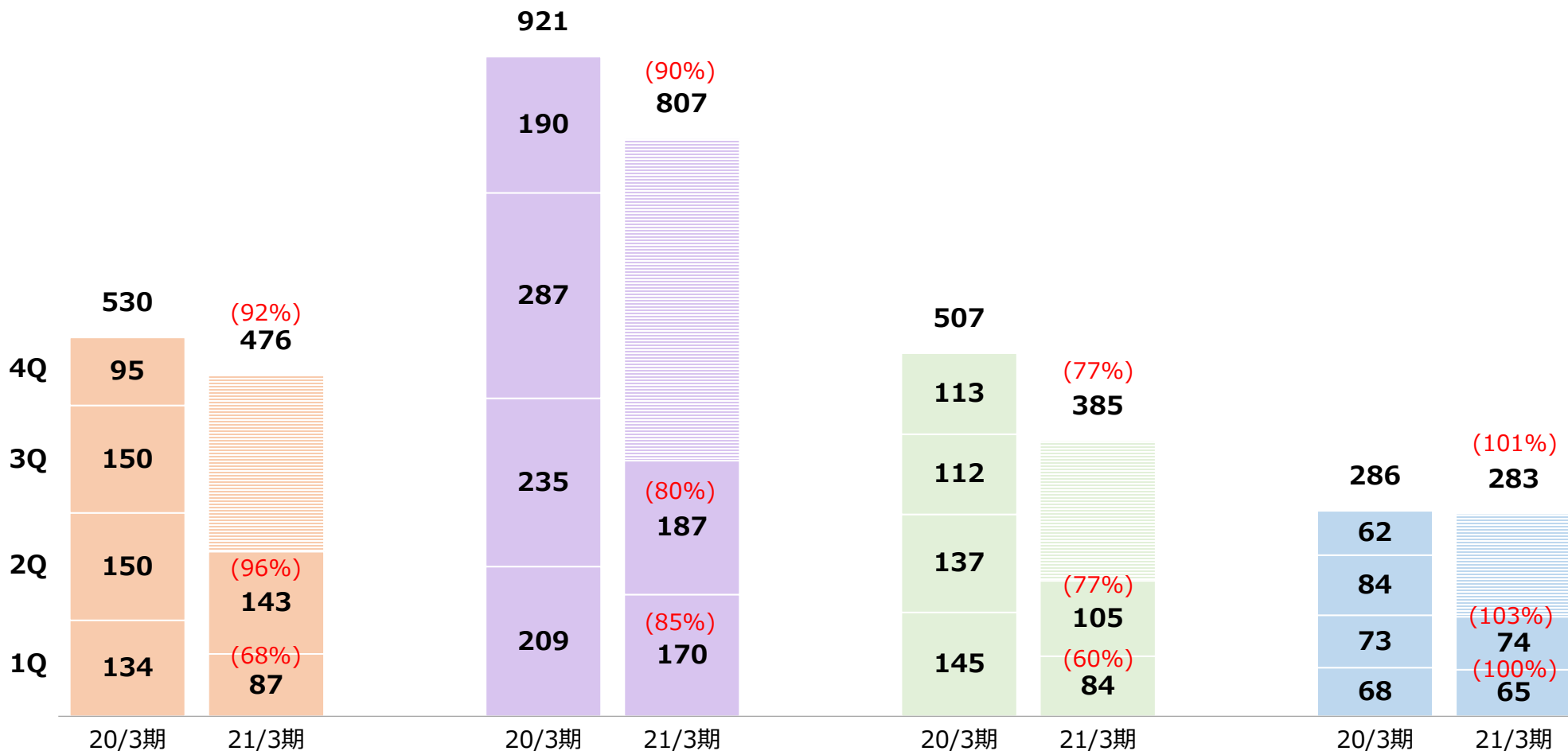
## ピアノ

## 電子楽器

## 管弦打楽器

## ギター

(億円)

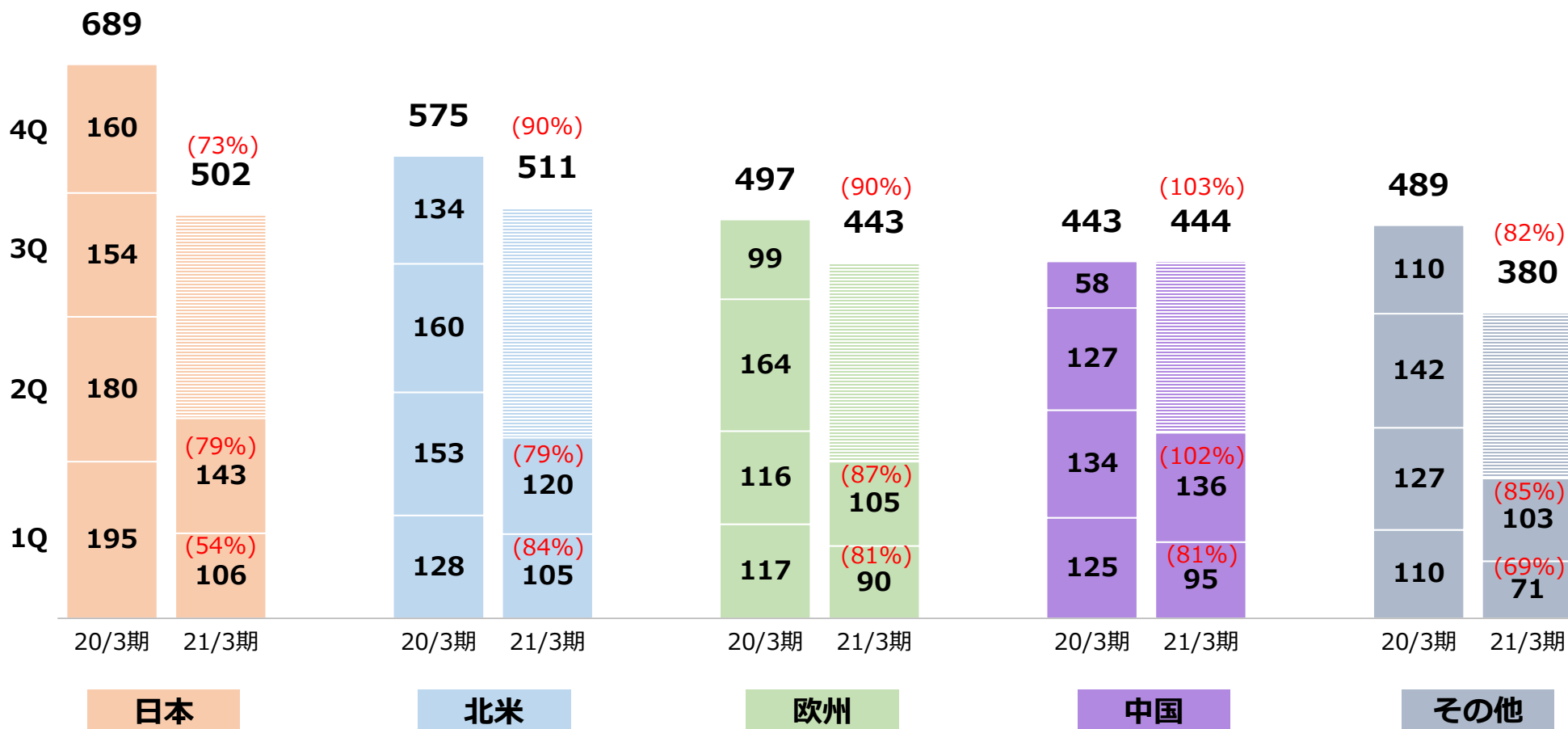


( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

\*ギターは、Line6・Ampegブランド売上を含む

# 地域別販売状況

(億円)



※ソフト、音楽教室等を含む

( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

# 個性際立つ商品の開発

## 幅広い技術を融合した個性的な商品群

### 電子ピアノ

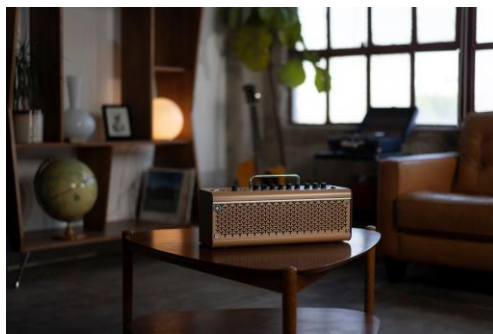
Clavinova 『CLP-700シリーズ』



限りなくグランドピアノに近い高い表現力を実現

### ギターアンプ

『THR30IIA Wireless』



国内外で高い評価を得た「THR」にアコースティックギターアンプが登場

### デジタルサクソ

『YDS-150』



サクソフォンの本格的な表現力と静音化を実現

### 電子キーボード

『PSR-SX600』



本格的な演奏や楽曲制作ができる多彩な機能を搭載

### ベーゼンドルファー グランドピアノ

『ベートーヴェン生誕250周年記念モデル』  
『セセッション』



特別なデザインモデルを台数限定で発売

### バリトンサクソフォン

『YBS-82』 『YBS-62』 『YBS-480』



最上位クラスを加え  
26年ぶりにラインアップを一新

# 個性際立つ商品の開発

## ブランド価値の高揚、ヤマハの成長を支えるYamaha Design



～German Design Award 2021\* 受賞商品～



### ステージピアノ 『CP88』

「本物」の音色、鍵盤タッチ、直感的な新インターフェイス

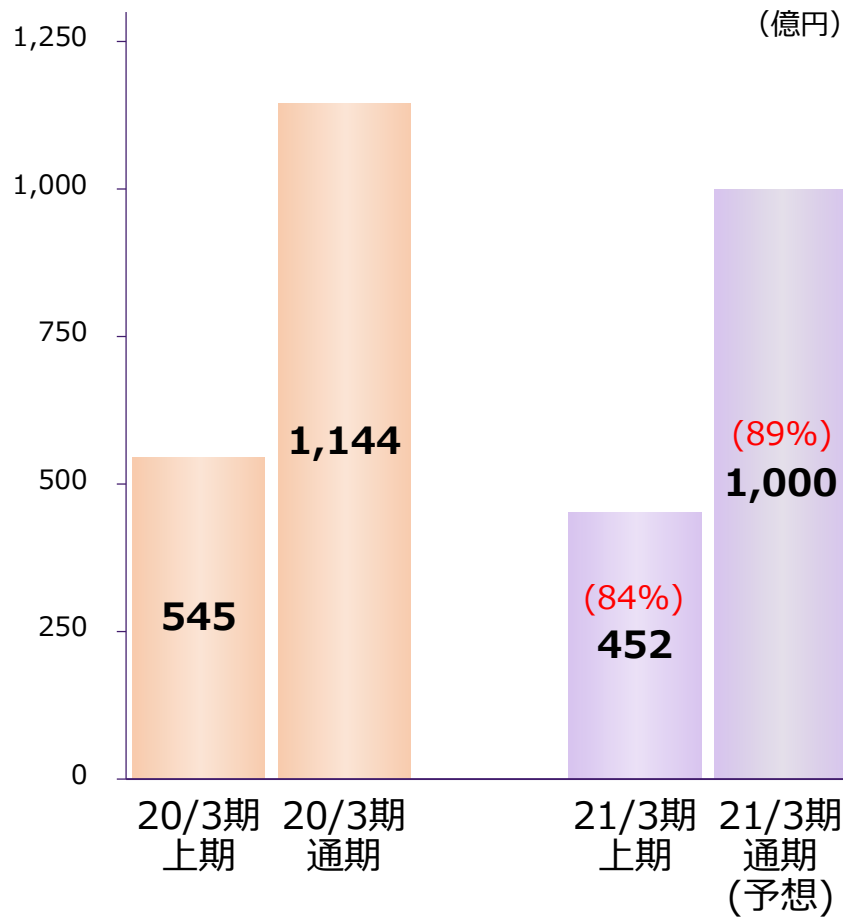
### ショルダーキーボード sonogenic 『SHS-500』

楽器を演奏したことがない方でも楽しめる、新しいタイプの楽器

\* ドイツデザイン評議会が2012年から主催している国際的に権威のあるデザイン賞 <http://www.german-design-award.com/>

# 売上収益・事業利益

## 売上収益



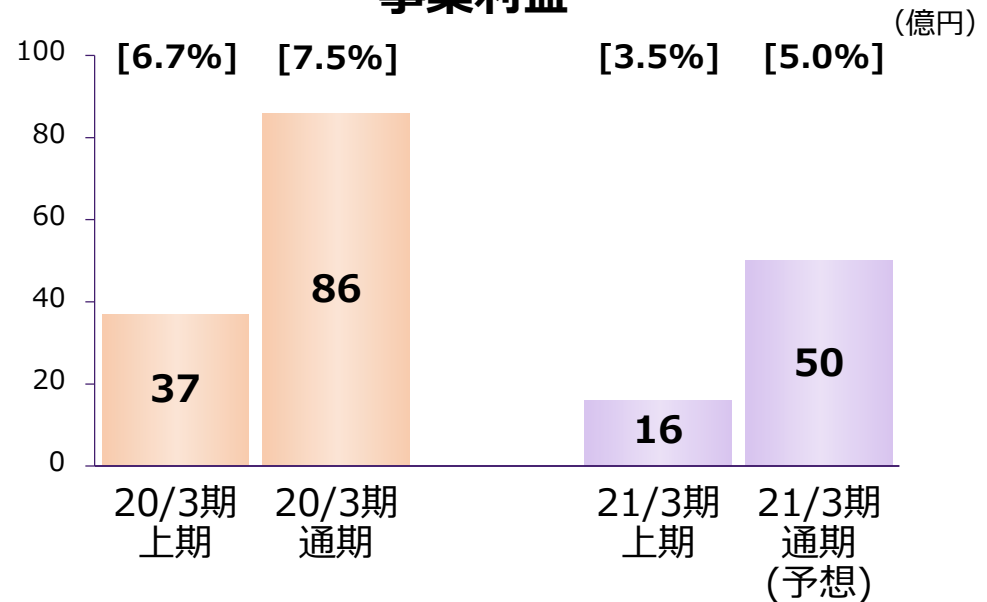
[上期状況] AVはステイホーム需要継続、PAは回復スロー

- ・ AVはイヤフォン・ワイヤレスSPが好調、サウンドバー・HiFi堅調
- ・ PAは個人音楽制作需要拡大も、ライブ市場の低迷が続く
- ・ ICTはテレワークが常態化し好調継続

[通期見込] ステイホーム需要継続も電子部品調達難により売上予想困難

- ・ AVはイヤフォン・サウンドバーの成長、レシーバーは部品調達難から供給不足による減収を予想
- ・ PAは個人の音楽制作好調も、ライブ市場の回復遅く減収を予想
- ・ ICTはテレワーク、リモート会議の定着により2桁成長を予想

## 事業利益



( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[ ]内は事業利益率



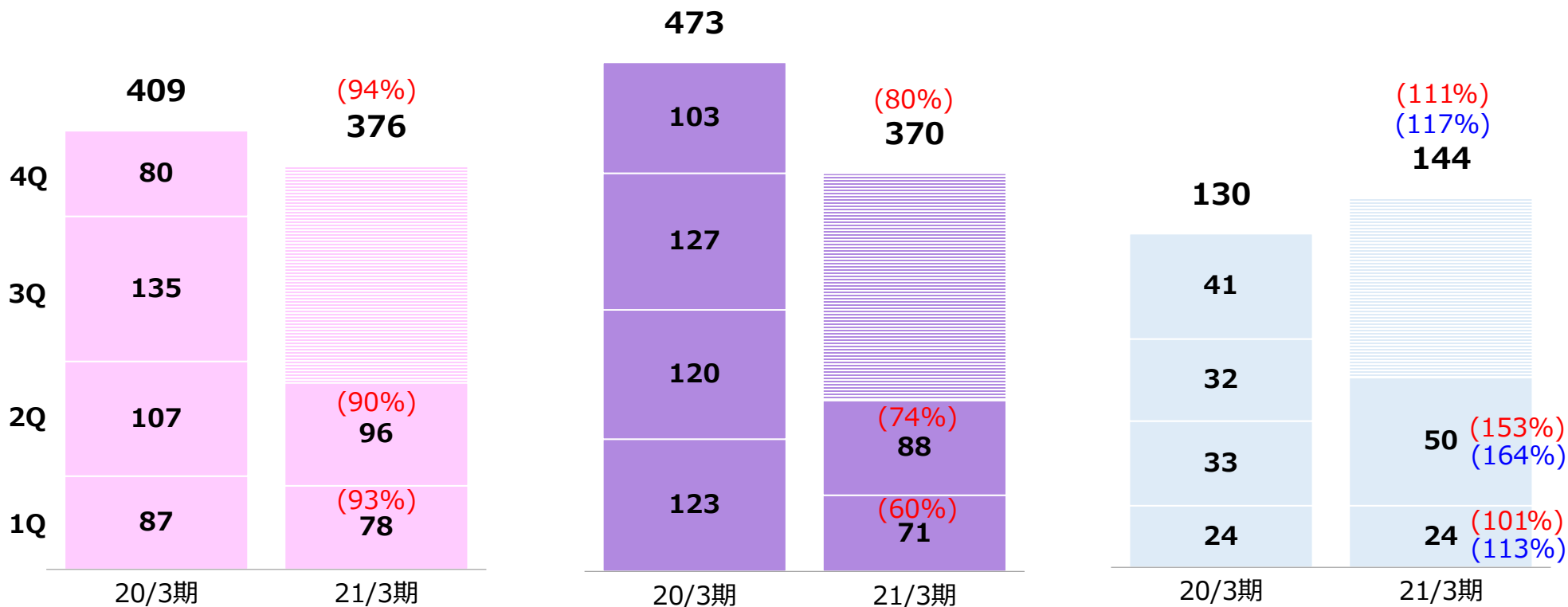
# 主要商品 販売状況

## AV機器

## PA機器

## ICT機器

(億円)



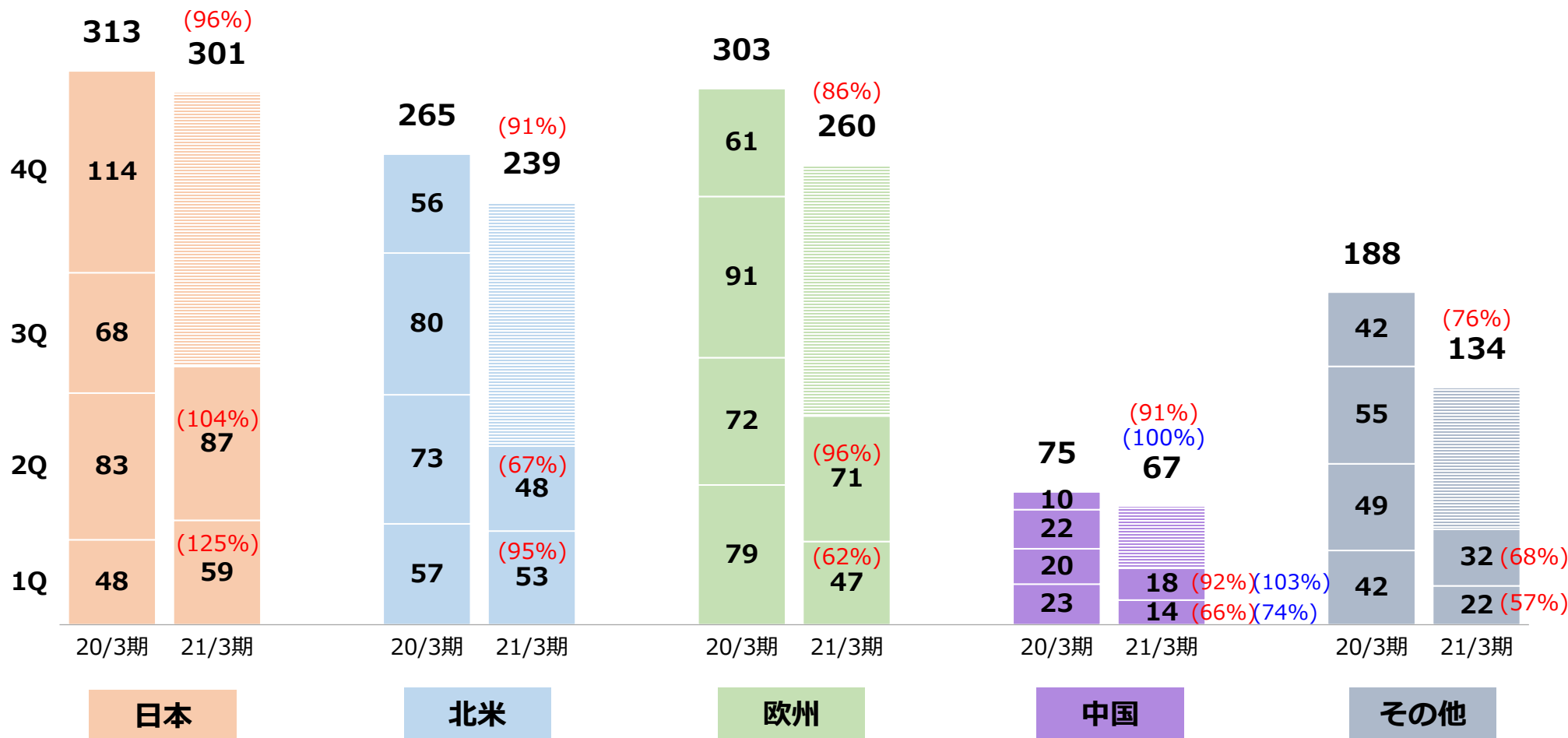
※PA機器はハード売上収入のみ（設備工事を除く）

( )内はOEM向けを除いた前期比増減

( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

# 地域別販売状況

(億円)



( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

( )内はOEM向けを除いた前期比増減

# 個性際立つ商品の開発

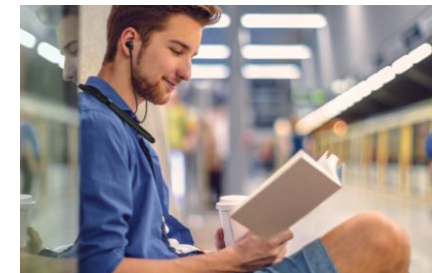
## 多様なニーズに応える商品展開

デジタルミキシングシステム  
『RIVAGE PM5』 『RIVAGE PM3』



直感的な操作性と軽量・コンパクト化を追求した新ラインナップ

ネックバンド型ノイズキャンセリング  
Bluetooth®イヤホン 『EP-E70A』



いつでもベストな音を楽しめる独自・最新機能を搭載

ブックシェルフスピーカー 『NS-3000』

サウンドバー 『SR-C20A』

AVレシーバー 『RX-V6A/V4A』



フラッグシップスピーカーの技術を継承  
高い空間再現力を実現



ヤマハ史上最小\*のコンパクトボディ  
サイズを超えた豊かな臨場感

\* 当社サウンドバー製品の容積比較において



デザイン、回路構成を一新  
映像・音質性能が更に向上

# 個性際立つ商品の開発

## 遠隔コミュニケーションの多様化に対応 柔軟な働き方、快適なコミュニケーションを実現

遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション『ADECIA』



遠隔会議用スピーカーフォン『YVC-330』



高品位で快適な遠隔コミュニケーション空間をワンストップで提供

「Interop Online 2020」において「Best of Show Award」を受賞

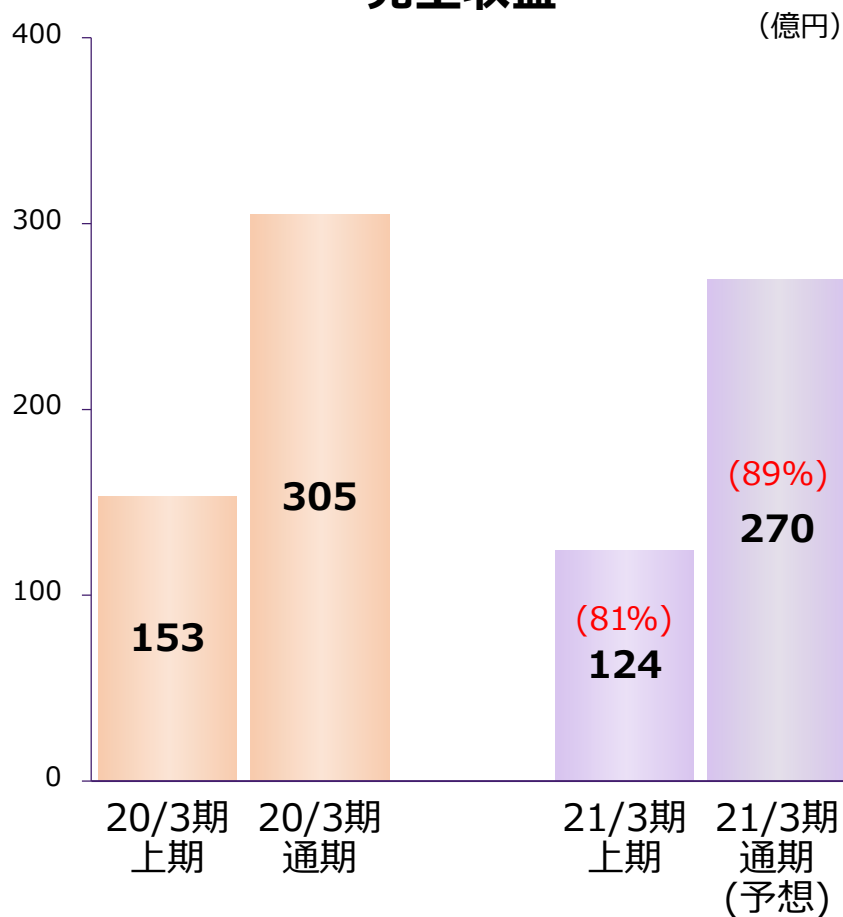
## 「日経コンピュータ 顧客満足度調査 2020-2021」 ネットワーク機器部門において5年連続で第1位を獲得

「日経コンピュータ 2020年9月3日号 顧客満足度調査 2020-2021 ネットワーク機器部門」において5年連続（通算6回目）で第1位を獲得。当社の機器は「信頼性」「運用性」「コスト」の項目で非常に高い評価。



# 売上収益・事業利益

## 売上収益



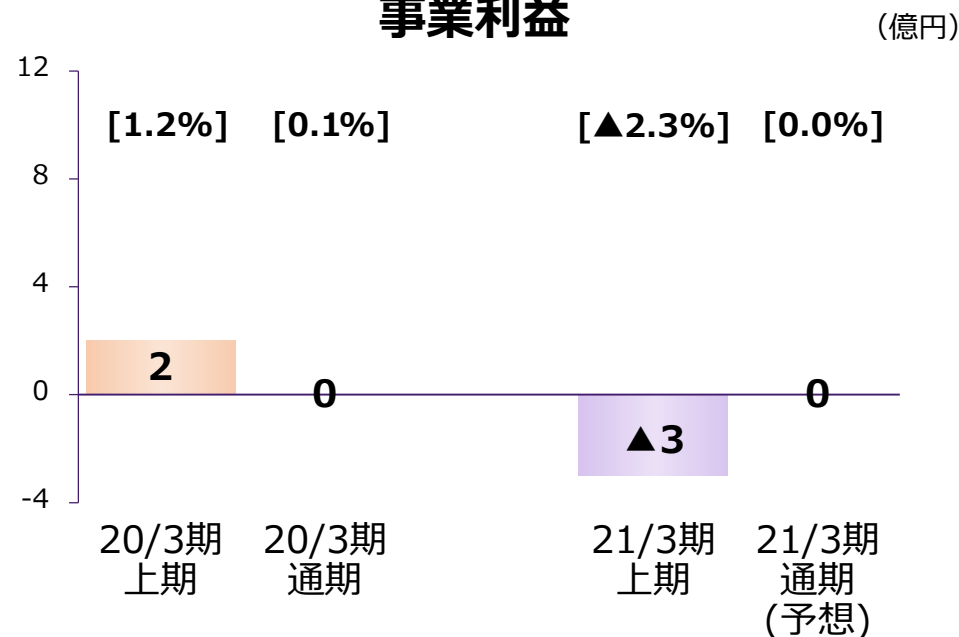
### [上期状況]

- ・電子デバイス、自動車用内装部品ともに前年に届かず、FA機器は増収

### [通期見込]

- ・電子デバイスは下期に車載オーディオ、FA機器は検査機需要増、自動車内装部品増を見込む

## 事業利益



( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[ ]内は事業利益率

# 個性際立つ商品の開発

## 成長市場である車内のトータルソリューション領域へシフト

～『車載向けヤマハブランドオーディオシステム』の採用がすすむ～

吉利グループ Lynk & Co の  
電気自動車に搭載決定



ヤマハ搭載車種をイメージしたコンセプトカー



『車載向けヤマハブランドオーディオ』

上海汽車グループMGの  
新型「MG5」に搭載決定

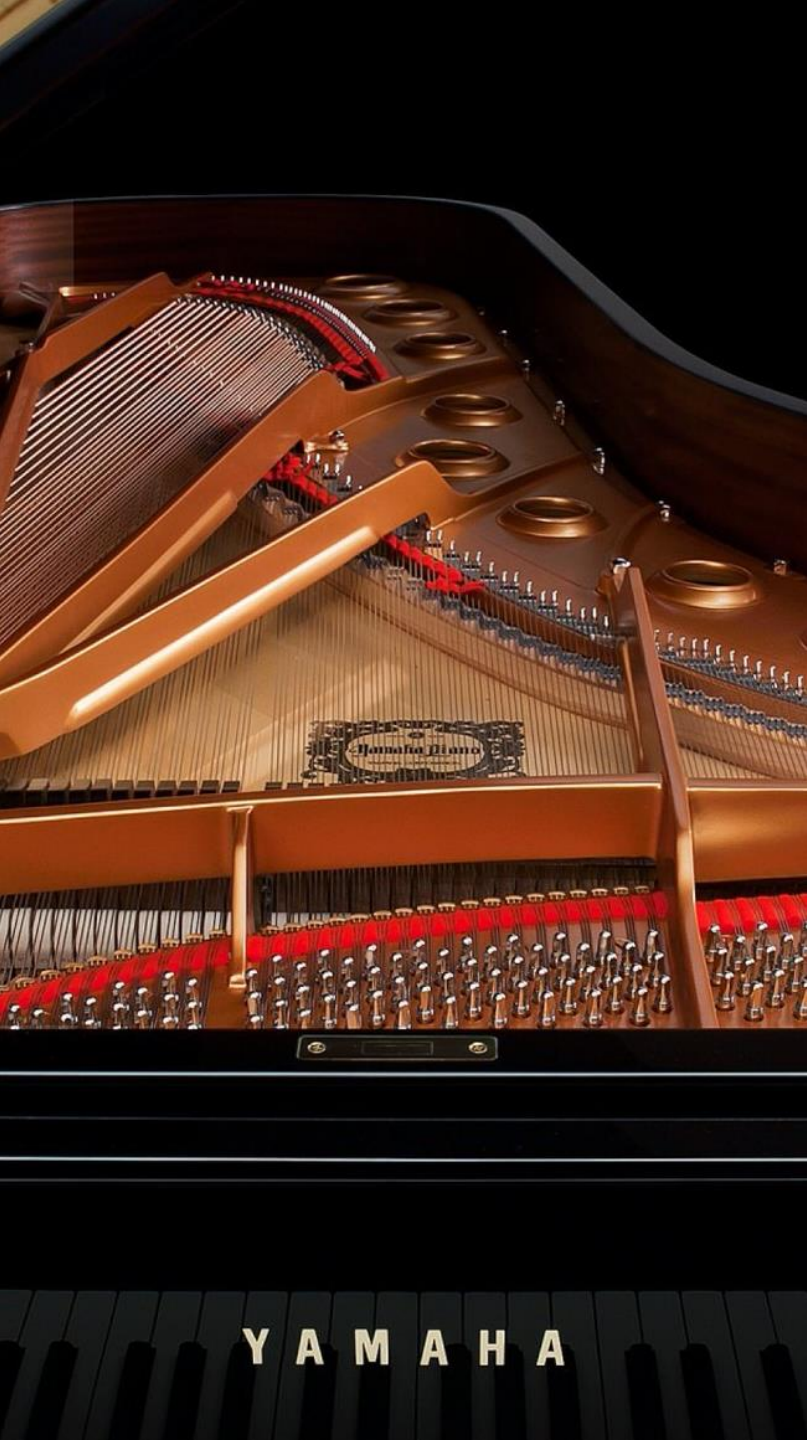


搭載が決まった新型「MG5」



ヤマハロゴがデザインされた  
ドアスピーカーグリル

ヤマハの車載向けオーディオシステムでは、楽器が引き出す音楽の魅力を余すことなく届けるべく、スピーカー、アンプ、信号処理のすべてにおいて楽器の再現性にこだわります。そして、車の個性やコンセプト、ユーザーへ訴求する価値観と一体となったサウンドを専用設計することで、その車にふさわしい理想の音を実現します。音楽の興奮や喜びを車の中の全員が最高のレベルで楽しむことができる音楽リスニング体験のみならず、車室内のサウンドに関する多様なソリューションも展開し、ドライビング体験をサウンドで彩ります。当社は今後、『車載向けヤマハブランドオーディオ』の展開を国内外に向けてさらに拡充し、感動体験を提供してまいります。



### 3. その他財務数値

# 貸借対照表

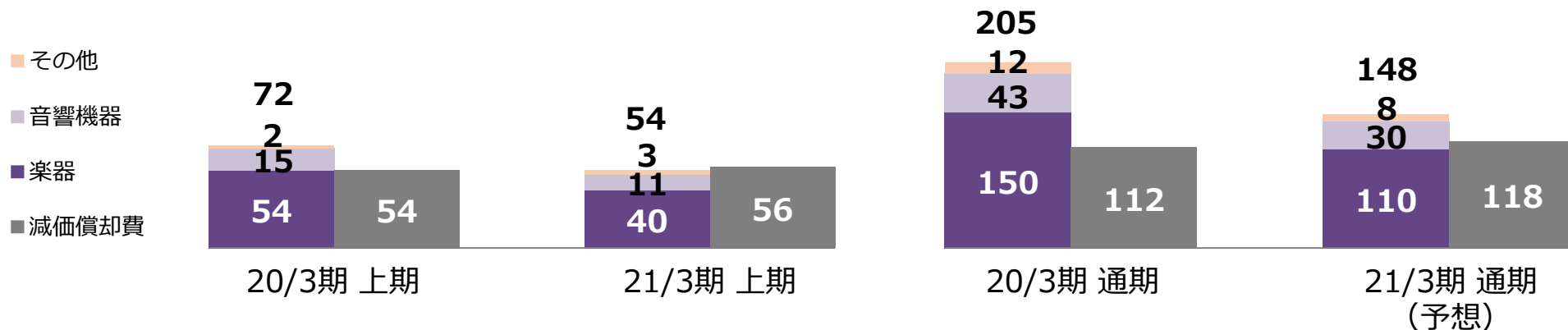
	20/3末	21/3 上期末	増減	21/3末 (予想)	(億円)
現金及び現金同等物	927	1,047	120	892	
営業債権他	581	494	▲87	590	
その他金融資産	129	65	▲65	74	
棚卸資産	1,001	1,000	▲0	950	
他流動資産	65	79	14	97	
非流動資産	2,038	2,109	70	2,143	
<b>資産計</b>	<b>4,740</b>	<b>4,793</b>	<b>53</b>	<b>4,745</b>	
流動負債	991	969	▲23	863	
非流動負債	484	445	▲39	451	
資本計	3,265	3,379	115	3,431	
<b>負債及び資本計</b>	<b>4,740</b>	<b>4,793</b>	<b>53</b>	<b>4,745</b>	



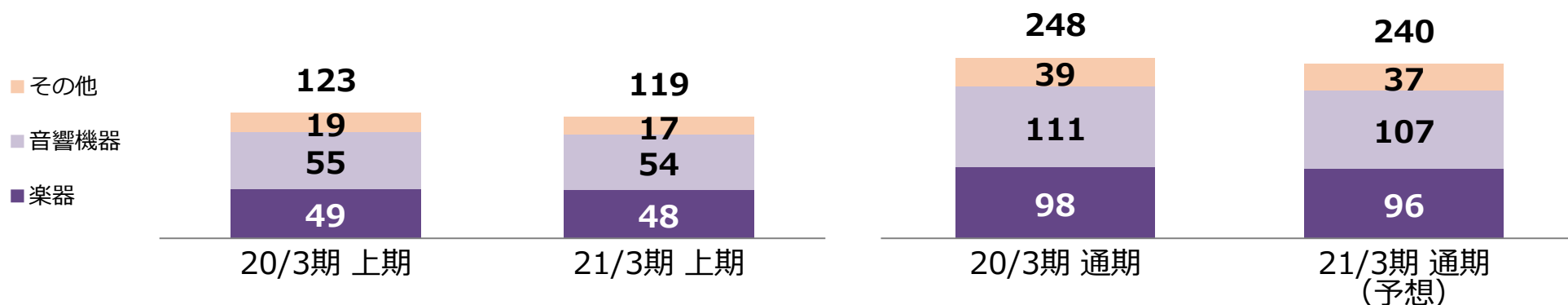
# 設備投資額・減価償却費/研究開発費

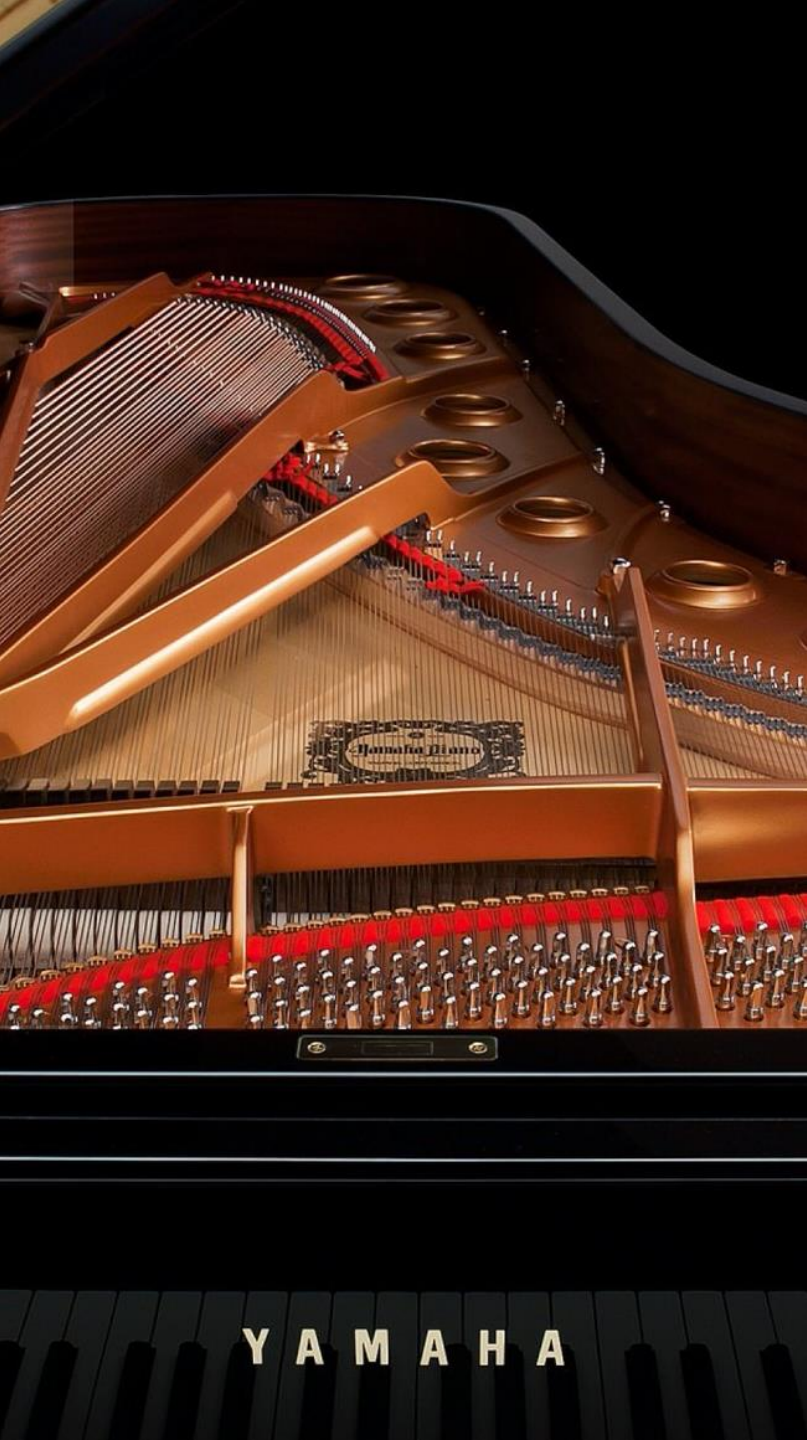
## 設備投資額/減価償却費

(億円)



## 研究開発費



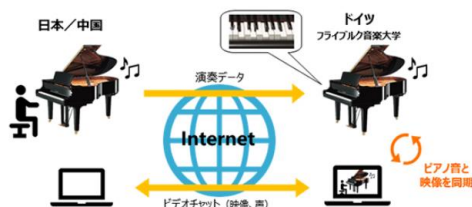


## 4. ESGの取り組み

## ESG

## 事業を通じた、音楽文化・社会の持続的発展への貢献

### ドイツ・フライブルク音楽大学の“リモート入試”への協力



日本と中国での受験者による演奏を遠く離れたドイツのピアノで忠実に再現

自動演奏機能付きピアノを活用し、日本・中国からのリモート入学試験をサポート

### 「耳を守る」独自技術「リスニングケア」で若者の難聴リスクに新しい価値を提案



Make Listening Safe

音量に応じて音のバランスを自動調整する独自技術 WHOの「Make Listening Safe」ロゴ

11億人が抱える難聴リスクに対し「耳を守る」という新しい価値を提案

### 新興国での器楽教育普及活動を通じた社会価値の創造



マスクなどを使用し一部課外活動を再開(マレーシア)

新興国の公教育へ楽器・教材・指導ノウハウをパッケージとして提供  
新たにブラジル、UAEでの展開が加わり、6カ国\*において器楽教育普及活動を推進

\* インドネシア、マレーシア、ベトナム、インド、ブラジル、UAE

### “新しい生活様式”に対応したサービスを可能とする『SoundUD\*音響通信モジュール』を提供開始



「SoundUD音響通信モジュール」によって変わる“新しい生活様式”

“新しい生活様式”に対応したサービスの例

〈活用事例〉  
タクシーアプリ「MOV」のキャッシュレス決済、  
混雑緩和推進アプリ「KQスタンプ」の乗車スタンプ付与 など

アプリやサービスに組み込むことで、やりとりの非接触化などが可能に

\* Sound Universal Design：音のユニバーサルデザイン

# トピック

## 一般社団法人デジタルメディア協会による「デジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤー'19/第25回 AMDアワード」において 「AI美空ひばり」が総務大臣賞（大賞）を受賞

当社の歌声合成技術「VOCALOID : AI™」で美空ひばりさんの歌声を再現し、NHK/ひばりプロダクション/秋元康/日本コロムビア/ヤマハの共同作品としてエントリーした「AI美空ひばり」が、110もの候補作品の中から、大賞である「総務大臣賞」を受賞しました。



第25回 AMDアワード授賞式の様子



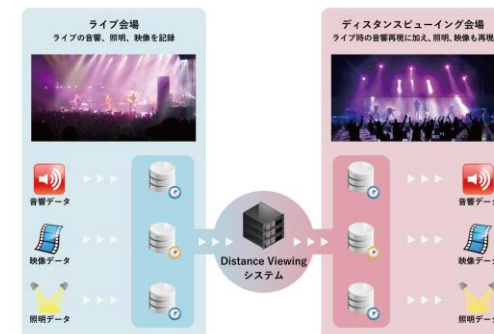
総務大臣(右)からの表彰

## 次世代ライブビューイング『Distance Viewing（ディスタンス・ビューイング）』 ～ニューノーマル時代の新しい音楽ライブの形を提案～

『Distance Viewing』は、ライブ音声を完全再現し、リアルな等身大映像と本番さながらの照明演出でそのパフォーマンスをステージによみがえらせる「ライブハウスで見る高臨場感ライブビューイング」です。コロナ禍で苦境にあるライブハウスの新たな動員源となるライブコンテンツを提供するために開発されました。



『Distance Viewing』のイメージ



ライブ時の音響再現、照明、映像データを統合し、高臨場感を再現

# トピック

## ヤマハ銀座店に、参加型の音楽体験を提供する「ブランド体験エリア」がオープン ～顧客接点の整備、直営店の体験型シフトがすすむ～

当社の旗艦店であり、国内最大級の総合楽器店である「ヤマハ銀座店」に、参加型のさまざまな音楽体験を提供する「ブランド体験エリア」を新たにオープンしました。音楽や映像を視聴するだけでなく、音や音楽に触れたり感じたりといった多様な音楽体験をお楽しみいただけます。



ヤマハ銀座ビル



1階のイベントスペース



2階のカフェラウンジ



カフェラウンジのバーチャルライブスペース

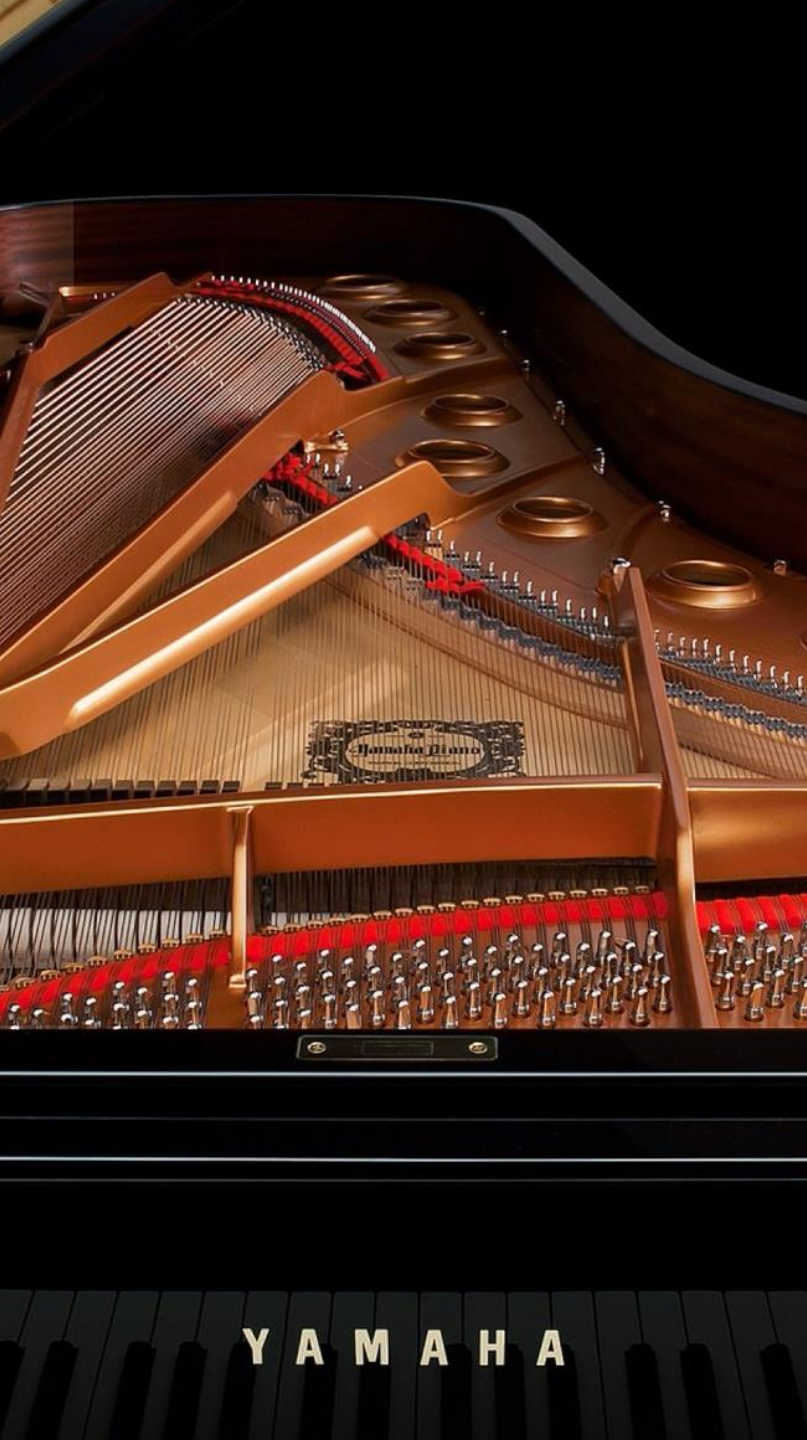
## 世界初\*、歌って会話する“ペット以上恋人未満”の“うたロボ” コミュニケーションロボット『Charlie チャーリー™』プロトタイプ公開

言葉をメロディにのせて会話する『Charlie』は、当社が持つボーカロイド技術や自動作曲技術等を活用しており、ユーザーが話しかけると、ミュージカルのようにメロディにのせて返答します。今後モニターなどでさらに開発を進め、2021年春の発売を目指します。



コミュニケーションロボット『Charlie』

\* 歌だけでコミュニケーションをとるロボットの意（2020年10月27日現在。当社調べ）



# 付属資料

# 2021年3月期 2Q 業績概要

(億円)

	20/3	21/3	前期比	
売上収益	1,090	<b>930</b>	▲160	▲14.7% <sup>*2</sup>
事業利益 (事業利益率)	154 (14.1%)	<b>119</b> (12.8%)	▲35	▲22.5%
当期利益 <sup>*1</sup>	138	<b>89</b>	▲49	▲35.7%

## 為替レート (円)

売上収益 (期中平均)	US\$	107	<b>106</b>
	EUR	119	<b>124</b>
利益 (決済レート)	US\$	108	<b>106</b>
	EUR	123	<b>118</b>

<sup>\*2</sup> ▲14.4%  
(為替影響除く)

\*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

# 2021年3月期 2Q 事業別実績

(億円)

		20/3	21/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	711	606	▲105	▲3
	事業利益	124	92	▲32	▲6
	事業利益率	17.5%	15.2%	▲2.3P	
音響機器事業	売上収益	297	257	▲41	0
	事業利益	28	27	▲1	▲1
	事業利益率	9.4%	10.4%	1.0P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	82	68	▲14	▲0
	事業利益	1	0	▲1	0
	事業利益率	1.5%	0.1%	▲1.3P	



# 2021年3月期 上期 その他収支等

		20/3	21/3
<b>事業利益</b>		<b>261</b>	<b>130</b>
その他収益・費用収支	固定資産処分損益	2	▲0
	その他	12	▲23
	計	14	▲23
<b>営業利益</b>		<b>276</b>	<b>107</b>
金融収支計	受取配当金	19	4
	その他	▲6	▲10
	計	13	▲6
<b>税前利益</b>		<b>289</b>	<b>101</b>
法人所得税費用		76	30
非支配株主利益		1	0
<b>当期利益*</b>		<b>211</b>	<b>71</b>

(億円)

\* 親会社の所有者に帰属する当期利益

# 2021年3月期 通期 その他収支等

		20/3	21/3 (予想)	(億円)
<b>事業利益</b>		<b>464</b>	<b>250</b>	
その他収益・ 費用収支	固定資産処分損益	3	▲0	
	その他	▲33	▲25	
	計	▲30	▲25	
<b>営業利益</b>		<b>433</b>	<b>225</b>	
金融収支計	受取配当金	37	21	
	その他	2	▲8	
	計	39	13	
<b>税前利益</b>		<b>472</b>	<b>237</b>	
法人所得税費用		125	76	
非支配株主利益		1	1	
<b>当期利益*</b>		<b>346</b>	<b>160</b>	

\* 親会社の所有者に帰属する当期利益

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。